

予報用語の見直しに対する主なご意見への回答

2月下旬から3月上旬にかけて気象庁ホームページにおいて、広く国民の皆様からご意見をいただきました。いただいた主なご意見に対する回答は以下の通りです。

番号	予報用語	ご意見	回答
1	未明	<p>[兵庫県 気象予報士 他] 「午前3時頃まで」から「未明」への変更について3件のご意見がありました。</p> <p>「未明」は明け方に近い日の出前の2～3時間で、0時から3時は「深夜」「真夜中」が適切との意見でした。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>「未明」の時間帯については、最近の民間の調査によると「午前1時頃から4時頃」と考える人が多いとの結果が出ております。また、報道機関の用語ハンドブックでも「未明：夜の明けきらない間を指す。放送では午前0時から3時頃を指して言うこともある。……」と、今回の改正と同趣旨の記述もあり、「未明」へ変更することとします。</p>
2	朝	<p>[東京都 会社員 他] 「朝のうち」から「朝」への変更について2件のご意見がありました。</p> <p>変更を必要とするほど重大なものとは思えない、より適切な表現を迫りすぎて、利用者に分かりにくくなるような表現は変更する必要はない、というご意見でした。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>「くもり『朝のうち』から昼前まで雨」といった表現は、不自然であるとの指摘が従来からありました。今回、「朝」に変更してできるだけ違和感をなくすこととしました。</p>
3	夜のはじめ頃	<p>[東京 高校生 他] 「宵のうち」から「夜のはじめ頃」への変更について27件のご意見がありました。</p> <p>主として、「宵のうち」は、日本語として情緒ある言葉、美しい言葉、好きな言葉なので予報用語の言葉として残して欲しい、というご意見でした。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>1日の細分時間帯を表す用語は誤解なく伝わるのが重要です。「宵のうち」については、一部ではもっと遅い時間帯を表すものと理解されていますので、分かりやすく誤解されることの少ない「夜のはじめ頃」に変更します。</p>
4	猛暑日	<p>[愛知県 民間気象会社員 他] 「猛暑日」について、9件のご意見がありました。</p> <p>「猛暑日」ではなく「酷暑日」とするという意見の他に、「超暑」「激暑」「常夏日」等の名称の提案がありました。新聞・ラジオ・テレビなどで慣例的に「酷暑日」が使用されているという指摘もありました。「猛暑日」に賛成のご意見も5件ありました。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>「猛暑日」について賛成の意見を多くいただきました。「猛」と「酷」には同じように程度がはなはだしい状態を示す意味がありますが、「酷」には「苛酷」など、否定的な意味での使われ方をされる場合もあることから、「猛暑日」を用語として使用することとします。</p>

5	爆弾低気圧	<p>[東京都 気象予報士 他] 「爆弾低気圧」について 5 件のご意見がありました。</p> <p>①「爆弾低気圧」の名称を使用すべき。 ②「急速に発達する低気圧」に加えて、「爆発的に発達する低気圧」の追加を提案。一般の人にとっては、「急速な発達」が何を意味するか理解しにくい。え、暴風や高波など具体的な危険性のイメージにつながらず、防災上、満足な言葉ではないと感じる。また、インパクトに欠け、多くの人々に防災上の関心を励起する効果は薄いといわざるを得ない。 ③そういった低気圧は、特に冬とその前後に多いので「冬台風」と呼ぶのはどうか。風が台風の定義を越えているし、被害のほうも実質的には台風と言える。台風という言葉を使えば注意喚起の効果が大きい。 ④この名前が適切かどうかは別にして、一般により注意・警戒を促すため用語を新設することは賛成。 ⑤使うべきではない。暴風警報クラスで「台風並みに発達した低気圧」に。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>「爆弾低気圧」の使用に賛成する意見は1件のみでした。また、「爆発的に、冬台風、台風並みに発達した」といった別名称の提案もありました。これらについては今回の改正理由で述べたように、防災の視点からは低気圧の発達の程度や進路の状況、低気圧に伴う雨や風、波などの状況を具体的に示して周知の方がより有効であると考えられることから、「爆弾低気圧」等の名称は用いずに「急速に発達する低気圧」、「猛烈な風を伴う低気圧」等を用います。</p>
6	豪雨	<p>[岩手県 教員 他] 「豪雨」について 2 件のご意見がありました。</p> <p>①この語の「用例」では、「『〇〇豪雨に匹敵する大雨』等の表現を用いる。」とあるが、運用上、かえって誤解を招く可能性がある。「匹敵する」の比較対象は、同じ地域内であることを、はっきりさせておかなければならない。用例としては、「当該地方で過去に発生した『〇〇豪雨に匹敵する大雨』等の表現を用いる。」などとした方がよいのではないかと。 ②改正案の「豪雨」は大雨の結果として生じる災害の規模が尺度（浸水家屋 10000 棟）となっており、現行の解説に比べて激甚なレベルです。今まで通りの安易な使用は利用者を混乱させる。気象予報士が解説で誤用しないか不安。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>①について、誤解を受けるおそれがあるため、ご指摘に従って用例の記述を修正します。 ②について、今回の変更では、真に甚大な災害の際に「豪雨」を使用し、その他の場合は安易に「豪雨」という表現は使用しないことにしました。ご指摘のように安易に使用されることで利用者が混乱することの無いよう、周知していきます。</p>